

新光ソーラーパーク(第一期)稼働



当社の北勢工場付近の三重県いなべ市に総面積約 20,000 m²を使用し、1.75 メガワットのソーラー発電事業を開始しました。

今後、当社の収益と共に、地元や環境にも貢献していく予定です。

事業者:新光ゴム工業株式会社

発電量:1.75Mw (一般家庭600世帯分の電力を供給可能)

パネル枚数:8010枚
(パネル出力2002.5kw)



工事責任者と当社社長



電力連結開始

ソーラー発電を開始するに当たり、日本経済新聞、中部経済新聞に取り上げていただきました。

(下記は中部経済新聞:2014/9/10)

あすから売電を開始する、
いなべ市の太陽光発電施設

いなべ市の遊休地活用

太陽光発電に参入

新光ゴム 安定収益の確保へ

自動車部品用ゴム製品製造業の新光ゴム工業（本社名古屋市中熱田区三番町、林剛右社長、電話052・661・6236）は、太陽光発電による売電事業に参入する。工場拡張用地として、いなべ市に保有する約6万平方メートルの遊休地を活用する。すでに太陽光パネルを設置済みで、11日から第1期の売電を始める。第2期も計画しており、早ければ1年後にもすべての用地を利用する。20年の買取期間終了後、主力工場を移転し自社発電で工場を稼働させる方針だ。（大蔵敦生）



林剛右社長

同社は1951年の創業。ゴムと金属を接合する技術を生かし、エンジンの振動を抑えるエンジンマウントなどが主力製品。売り上げは約43億円（2013年11月期）。

林社長は「取引先が海外で現地調達を高めていることから、国内生産が伸び悩む」と判断。自動車部品事業に次ぐ、新たな収益事業として売電事業への参入を決めた。

第1期は、遊休地約6万平方メートルのうち、約2万3千平方メートルにパネルなどの設備を設置。出力は1・75メガワット。売電価格は40円で、売り上

げは年8千万円を見込む。総投資額は約6億円。三菱東京UFJ銀行などから資金調達した。第2期は、残りの用地にパネルを設置。出力は2メガワットを計画している。

林社長は「売電事業で安定した収益を確保すること、本業である自動車部品事業に積極投資し、競争力を高めたい」と話した。買取期間終了後、エンジンマウントなどゴム製品の主力工場である北勢工場（いなべ市）を移転。今後の電力料金の高騰を見据え、自社発電工場として構想を練っている。